

ふみびと

第330号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

手紙の対話 日常を特別に

手間かかるからこそ

「新米ができたよ」

いつもお米を送ってくれる親戚からの、毎年この時期の嬉しいお知らせ。日常的に極上のコシヒカリをいただいているので、おかげがなくても美味しいくらいなのですが、この時期のお米はまた格別なもの。

に手伝った稲刈りを思い出すからなのかもしれませぬ。

祖父母が農家だったことから、稲刈りの時期になると農家ではない両親もそれに参加し、必然的に私もその輪の中に。鎌を持って田んぼの端の稲を刈り、それ以外を祖父がコンバインで一気呵成に刈り取るという作業。かなりの時間をかけて刈り取ったつもりなのに、自分が刈った稲から取れ



たお米はほんのわずか。子どもながらにお米を作るのはこんなに大変なんだと感じたものです。手伝いとは言っても、今にして思えばとても戦力にならないような仕事量。というより大人だけでやった方が早いほど。それでも祖父母や両親は、稲刈りの大変さ、ひいてはお米を作ることの苦勞を体験させたかったのかもしれない。

たった一度の食事。食卓に並べられたいくつのおかずやご飯は、ここに並ぶまでの間にこんなに多くの人の、多くの手間がかかっているということも。食べ物の味以外に「おいしさ」を感じられる理由を体験できたような気がします。ちよつと体重が気になる食欲の秋。そうなるしてしまうのも仕方ない、ちよつと誰でもない誰かに言い訳をしながら。

お知らせ

★10月の発送日

10月発送日は16日、30日(13日、27日)までに事務局に到着することをお近くの郵便局で確認の上ポストに投函して下さい。

★感想・体験談

皆さんのお声をウェブ上で掲載させて頂き、方法は事務局宛てのメモや便せん、何でも有り難いです。頂いたメッセージは個人情報伏せした上でご紹介させて頂きます。なお、現在ご家族・ご友人紹介キャンペーン実施中です。紹介した人された人双方に、1ヶ月分期間を延長させて頂きます。

秋を待つ心

秋になったらしたいことがたくさんある。ゆっくりと散歩して、じつくりと読書に取り組む。でもなかなか秋の訪れる気配がない。朝晩は空気に多少の爽やかさを感ずるものの昼には嘲笑うかのような暑さがやってくる。

窓からの風を感じて本を読もうとしても蒸し暑さに耐えかねて、結局窓を閉めてエアコンを入れる。

秋になっても読書にも集中できない。そんな日が続く、気持ちも体も疲れてしまっているのだらう。しばらくはただゆっくりすることにしよう。そう思いながら窓越しに外を眺めると、いくぶん優しい色をした日差しが「そうだね」と言ってくれている気がした。

